

## センター長挨拶：龍谷大学法学部教授 富野 暉一郎

このたび、LORC のプログラムの重要な要素であるニュースレターを定期的にごお届けすることとなりました。LORC の研究活動は、2年目に入って研究の初期の成果が徐々に形を取りはじめ、また研究会の開催も頻繁になって来ました。今後は、本研究プログラムに関する情報を可能な限り LORC の外部の方々で共有し、地域社会との連携を取りつつ LORC の研究を進めることが重要な段階になります。このニュースレターがそのために活用され、オープンリサーチセンターの趣旨に資するものとなりますよう期待しています。

## LORC6月スケジュール

- 5日(土) アフリカ研究会(4班): Dr. Aili Mari Tripp (University of Wisconsin-Madison)  
Dr. Isaac K Nyamongo (Institute of African Studies, University of Nairobi)  
Birmingham 大学研究会(1,2班): Prof. Ken Spencer (The Institute of Local Government Studies, University of Birmingham)  
小山善彦氏(パーミンガム大学ジャパンセンター客員研究員)
- 7日(月) Birmingham 大学研究会(3班): 同上
- 22(火)~29日(火) 4班、共同研究の事前調整のためインド訪問

## 各班活動状況

ここでは、各班の RA から今月の活動報告と来月の予定を、簡単に説明します。

### 第1班 RA 辻本 乃理子

4月と5月に各一回打ち合わせ会議を行い、第1回研究会を5月26日に開催します。ここでは、第1班の2004年度の研究活動について議論されます。また、6月5日に第1班第2回研究会として、2班と共同で、7代目小川治兵衛作庭の無鄰庵にて講演会を開催します。

### 第2班 RA 新井 健一郎

去る5月9日に、2004年度第1回研究会が開催された。班を越えて多くの研究員の方にご参加をいただき、先年度末に実施した自治体研修に関するアンケート調査の結果について報告、議論が行われた。ついで、LORC 版人材育成方針をまとめたブックレットの作成について話し合いがもたれ、それについては引き続き5月29日13:00

から開催される第2回研究会で議論をする。また、6月5日には、第1班と共同でパーミンガム大学INLOGOV、Ken Spencer 教授を迎え講演会を開催する。(コメンテーター: パーミンガム大学、小山善彦氏)。講演会の内容は、「地方自治体の Modernisation とボランティアおよびコミュニティセクターの役割」と、「Modernisation 政策によって必要となってきた新しい人材」を予定。

### 第3班 RA 田村 瞳

5月17日に、第3班の2004年度第一回研究会を開催しました。そこでは、今年度の第3班の研究計画の確認、来年度の提言書作成への取組み及び役割分担等を中心に議論が行われました。そして、6月7日に第二回研究会が開催されます。これは、第3班の研究員であるパーミンガム大学の客員研究員である小山氏と同大学の Ken Spencer 教授に来日していただき、「イギリスにおける地域人材・育成の評価・認証システムについて」をご報告していただく予定です。

#### 第4班 RA 金 湛

5月までは、これから開催される研究会に向けて、先生方の時間調節や研究資料の作成を中心にしてきました。第4班の平成16年度第1回目の研究会が京都大学との合同で6月5日に龍谷大学深草キャンパスにて開催されます。演題は2つあります。アフリカのジェンダー研究を行われてきたアイリ・マリ・トリップ博士は、「変貌するアフリ

カ議員の面々：女性とクォータ制」について講演を行い、ナイロビ大学アフリカ学研究所のイサク・K・ニャモンゴ博士は、ケニア南西部のマラリアが多発する地域(グシイ)における生態学的な変化とマラリアのリスクについて講演を行います。

### LORC information

ここでは、ここ1ヶ月のLORC全体的な動きについて報告します。

#### PD・RA会議について

今年度からの新しい試みとして、PD・RA会議を4月から毎月開催しています。各班の横断的なリンクとPD・RAチームのキャパシティの強化を目的としたものですが、情報伝達や仕事分担などの面で早速成果が出始めています。

#### 国際シンポジウムについて

11月8,9日にオランダのハーグで開催される国際シンポジウムですが、現在当日のスケジュールや予算などについてオランダ地方自治体協会のPeter Knip氏を中心とした現地チームと調整中です。5月14日(金)時点での参加希望者は、15名となっています。

#### 2004年度第1回研究連絡会について

去る4月26日(月)に本年度第1回研究連絡会が開催され、各班の本年度事業計画及び予算、国際シンポジウム、自治体・NPO連携プログラム、PD・RA会議報告などについて議論されました。連絡会の要旨は、LORC研究員の皆様には4月30日に「第1回研究連絡会報告」という件名で送信済みですので、そちらをご覧ください。LORC研究員以外の方で要旨をご希望の方は、事務局までご連絡下さい。

### LORC 資料室内文献紹介

この欄では、主にLORC資料室(LORC支援室隣)にある文献を紹介していきます。新聞3誌(朝日、日本経済、京都各誌)専門雑誌(現在2誌)も所蔵しています。なお、専門誌の目次は、各誌のウェブ・サイト(下記参照)にてご覧になれます。

#### ガバナンス

[http://www.gyosei.co.jp/book/g\\_zassi/gover/index\\_gover.html](http://www.gyosei.co.jp/book/g_zassi/gover/index_gover.html)

#### 日経グローバル

<http://www.nikkei.co.jp/rim/>

## 掲示板（仮）

ここでは、この Newsletter 読者の皆様からのお知らせ、投稿などを掲載する予定です。内容はどんなことでも構いません。掲載をご希望の方は、PD 的場 ([matoba@rnoc.fks.ryukoku.ac.jp](mailto:matoba@rnoc.fks.ryukoku.ac.jp)) までご連絡下さい。

## LORC 研究員紹介

LORC は約 60 名の研究メンバーからなる大きなプロジェクトですが、それだけに研究メンバーの中にはお互い全く面識がないという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そこでここでは、毎回数人ずつ LORC 研究員からの一言コメントを紹介し、研究員間のリンク作りに少しでも貢献できればと考えています。今回は、班代表の先生方のコメントを紹介します（第 3 班代表の富野先生は、冒頭の挨拶を「ひとこと」に代えさせていただきます）。

### 第 1 班代表 白石克孝（龍谷大学法学部教授）

ここ何年かにわたって、英国と米国を取材してきて、地域再生という領域に関わっていえば、両国における非営利組織の位置づけや方向性が少し乖離してきた気がします。米国では事業体としての位置づけ（それ自身十分にダイナミックですが）に結果的に押しとどめられており、非営利非政府組織は活発ではあっても、セクターとして成立するといった状況はなかなか見えてこない様な気がします。ブッシュ大統領ではなくゴア大統領であったら事情は違っていたかもしれませんが、英国では地域戦略パートナーシップ（LSP）の結成とか、ローカル・コンパクトの締結といった動きが急で、包括助成型の地域再生系の予算ともあいまって、サードセクターとしての成立を促すような社会的実験とよべそうな改革がつづいています。非営利非政府組織の可能性を世界に知らしめた両国の比較は、LORC が研究する参加と協働の地域システムづくりに大いに参考になると考えています。2004 年度はこのあたりに重点を置いた班研究を進めていくつもりです。

### 第 2 班代表 土山 希美枝（龍谷大学法学部助教授）

昨年度を通じて、2 班では研究の方向性、内容、課題がしだいに具体化し、今後に向けて意欲も楽しみも増してきているように思えます。班員はじめ研究員の皆さんやスタッフに支えられながらの班運営も 2 年目に入りました。今年度は後期に留学も予定していますが、班員の皆さんの活力を与えていただいて、いきいきとした研究活動となるように、力を尽くします。

### 第 4 班代表 斎藤 文彦（龍谷大学国際文化学部助教授）

発展途上諸国における参加型・協同型の政策形成や実施は日本よりも進んでいる点も多く見られます。そのような中から得られた教訓を LORC に反映したいと思います。

## 編集後記

初出勤からはや 1 ヶ月、日常業務にも慣れてきました。早く生活の方にも慣れて、研究活動にも力を入れたいと思います。今年度から、学会年会費や研究発表参加費の学生優待が適用されなくなり、研究者としての自覚と自立が求められていると思う今日この頃です。（N）

今後ともよろしくお願いいたします。（K）

最近、コーヒーを砂糖入りからブラックに変えました。これで、気持ちと体を引き締めがなりたいと思います。（H）

長い学生生活を終え、31 歳になってやっと社会人デビューしました。学生生活が長いせいか社会人になることにずっと前から憧れがありました。環境はあまり変わっていませんが、考えていることが大部変わったような気がします。学生るとき、勉強のことや、生活管理などの「自己責任」のことをよく考えていましたが、今になって、自分だけではなく、家族や職場に対する責任、いわゆる「社会人の責任」について、自分に問い詰めるようになった。その気持ちは、カフェオレからブラックに変わったときのことを思い出させてくれました。甘いものから苦いものになったという意味ではなく、ごまかしを取り除いた本物の味を知ったときの刺激であります。（Z）

半年を、「濡れた砂漠」という異名を持つスコットランドの北西端、人里離れたアヒルティブウイーで過ごし、帰国後は部屋にこもってスコッチのボトルを一本（二本？三本？）抱きかかえ修論にあけくれた残りの半年を終え、気がつけば外には社会という名の別世界が存在することをすっかり忘れていました。アイロンのかかったシャツに身をくるみ、ヒールのついた靴で小走りしながら「働く」世界へ戻るの正直ちょっと大変でした。これからどうぞよろしく願います。（W）

今年の RA・秘書さんはとっても優秀。となれば、PD が考えることといえば・・・。（T）